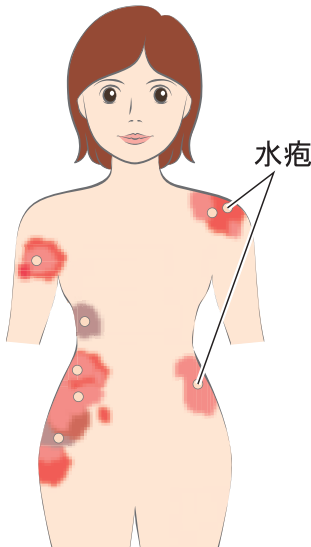


体のあちこちに大きな水疱ができました 類天疱瘡の疑いがあります

立川皮膚科クリニック
www.tachikawa-derma.com

類天疱瘡の症状



全身にかゆみを伴う紅斑ができ、症状が進むと水疱ができる。この症状について、立川皮膚科クリニック・伊東秀記院長にききました。

「自己免疫性水疱症の類天疱瘡のいてんぼう(そう)の疑いがあります。30代から発症し、60歳以上の患者が多いのが特徴です。皮膚の表皮と真皮の境にある基底膜部(タンパク質)に対する自己抗体(自分自身を攻撃)が原因で、皮膚の表面に大きな水疱ができてきます。診断は「皮膚所見と皮膚の組織検査、血液中の抗体検査で診断を確定します」。

「患部の範囲が狭く、軽症の場合はテトラサイクリンとニコチン酸アミドの内服薬を併用します。効果がなければステロイド内服薬を処方します。」

「他人に伝染しますか?」「しません。遺伝することはありません」

「診断は?」「診断は「皮膚所見と皮膚の組織検査、血液中の抗体検査で診断を確定します」。

「治療方法は?」「治療方法は「自己免疫性水疱症の類天疱瘡のいてんぼう(そう)の疑いがあります。30代から発症し、60歳以上の患者が多いのが特徴です。皮膚の表皮と真皮の境にある基底膜部(タンパク質)に対する自己抗体(自分自身を攻撃)が原因で、皮膚の表面に大きな水疱ができてきます。診断は「皮膚所見と皮膚の組織検査、血液中の抗体検査で診断を確定します」。

院長:伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業、東京慈恵会医科大学皮膚科非常勤講師



休診日: 日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~13:30	○	○	○	○	12:30まで受け付け	○
15:00~19:30	○	○	○	○	18:30まで受け付け	17:30まで受け付け

2017年1月7日付 「リビング多摩」に掲載されました